

7月28日、滋賀県草津市で、第1回「いま、『協同』が創る2017全国集会」実行委員会を開催した。日本労協連、日本高齢者生協連、菜の花プロジェクトネットワーク、労協センター事業団、協同総合研究所、日本社会連帯機構などが呼びかけ、当日は滋賀県生協連、滋賀県労働者福祉協議会、障害のある人の就労を支援するNPO団体、フードバンク滋賀、夜回りの会草津、ワーカーズコープ(連合会、西日本、関西、草津、栗東)、京都高齢者生協暮らしコープ、くらしと協同の研究所、協同総合研究所、菜の花プロジェクトネットワーク、油藤商事(BDF精製)から28人が参加。

第1回実行委員会に向けて、呼びかけ団体は準備会を重ね、ワーカーズコープ西日本(京都)では、関西圏で活躍する様々な方を講師に迎えて「シンポジオンIN京都～協同を創る全国集会へ向けた夜の学習会」の連続的開催、また関西6県ではプレ集会の開催の準備に入り、10月23日にはプレ協同集会を嘉田前知事を講師に滋賀で開催するなどの準備を進めてきた。

実行委員会では、「安倍政権による日本社会の反動的再編が進む中で、市民の手で創る新しい市民的運動の胎動を創る契機となる集会にしたい。主体は市民自身であり、異なるジャンル同士がつながることに意味がある。関西圏から北陸まで、全県で実行委員会を結成し、労協連は西日本全体で取り組むこととしたい」と永戸理事長の挨拶に続く

て、「協同を問う」から「協同を拓く」、そして「協同が創る」となった協同集会の歴史を踏まえ、今集会を「第一に、多数の人々が参加する協同集会に、第二に、実行委員会そのものが協同の実践的事実を創る集会にする、第三に、過去には全米退職者協会(AARP)、日韓連帯の中で前回の福岡集会では韓国から多数参加もあったが、国際的な協同組合運動、国際連帯などもテーマに位置づける」と、古村専務より提起。その後、参加者から、自己紹介と集会への期待について報告頂き、事務局体制の確認を経て、次回を9月3日に草津で開催することを確認。

2017年10月に開催する滋賀県での集会は、前回福岡での開催から3年目の開催となるが、1987年にプレ集會を開催してから30年目という節目の集會になる。30周年記念の協同集會としてその成功に向けて、関西圏のさまざまな団体・個人に参加を呼びかけ、実行委員会を重ね協同で取り組んでいきたい。

関西圏の会員・研究者の皆さんの実行委員会への参加を呼びかけます(以下、呼びかけ文)。

「いま、『協同』が創る2017全国集会」 実行委員会参加のお願い

「自分たちの未来は、自分たちで拓く」「みんなの社会を、みんなでつくる」

本来、それが人間のあるべき姿ではないでしょうか。しかし今、人間らしく生きようとすればするほど、閉塞感と生きづらさを

感じるようになっていないでしょうか。グローバル化する経済を必死に追い求め、市場原理を蔓延させ、競争の原理が強まる中、成果主義や効率優先の価値観が人々を覆い、「今だけ、金だけ、自分だけ」といった意識に支配されていないでしょうか。その結果、社会に分断が広がり、孤立と排除が増し、失業と貧困が社会問題として拡大しています。これらの課題は、「自己責任」として個人の問題にされています。人の痛みを感じず、無関心がはびこる今の社会。時にはいのちよりも経済を優先されていると感じてしまうこの社会。問題は、社会のあり方から生まれ広がっていると思えてなりません。私たち一人ひとりこの社会の未来は、誰かに委ね依存するのではなく、私たち自身が立ち上がり、手を取り合い、協同することで、一人ひとりが生活と人生の主体性を取り戻し、そのつながりの中で社会を変えていくときに来ているのではないのでしょうか。

1987年、静岡県伊東市で、「協同」による豊かで希望にあふれる社会を展望する、「いま、『協同』を問うプレ集会」が開催されました。これを皮切りに、過去16回全国集会が開催され、協同組合や労働団体、非営利組織や社会的企業、メディア関係者、自治体職員、研究者等といった、様々な市民が一同に集まり、地域や社会をよりよくしようとする実践を交流し、新しいつながりと行動を生み出してきました。

今回17回目となる本集会は、30周年という節目を迎え、滋賀の地で開催することになりました。この地は、いのちの源ともい

る水源・琵琶湖とともに暮らす中で培われた、環境意識の高さと、「惣」に代表される市民自治の意識や文化が育まれてきた歴史があり、全国的にも福祉・環境・文化の中心的な発信地となっています。一方、市民や働く人が自らの手で必要な資本を持ち寄り、経営にも責任を分かち合って参加し、地域に必要な仕事をおこし運営する、「協同労働」という働き方が今日5万人に広がり、この協同労働の協同組合に国が法人格を持たせようとする動きも活発になってきています。これが実現されれば、市民自らが仲間を募り、地域の必要に応えるさまざまな仕事が立ち上がり、市民による地域づくりが活発化されていくこととなります。

社会的困難が増すほどに、協同することの必要性が増す時代。私たちは、さまざまな社会的困難や課題解決のために、分野や専門の垣根を越えてつながり、人と自然、すべてのいのちが持続・循環し、協同・共生する社会づくりの実現に向けて、この滋賀の地で「いま、『協同』が創る全国集会」を開催・成功させ、全国に大きく発信していきたいと考えています。

ぜひとも、本集会の開催主旨をご理解いただき、滋賀から関西、そして日本全国に「協同」を染み渡らせるために、「ともにつくる」主体者として、実行委員会への参加を心から呼びかけます。

2016年5月吉日

◎開催日 2017年10月7日(土)、8日(日)

◎会場 初日)びわこホール、
2日目)龍谷大学瀬田キャンパス